

ごらくちょう

Bird of Paradise


発行 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会 編集 NPO 法人 日本・パプアニューギニア協会広報部 発行日 令和2年5月13日

パプアニューギニアでの初の日本語能力試験実施に向けた協会の役割

伊藤 明德（ポートモスレービー支部 支部長）

2020年7月5日にソゲリ国立高校（ソゲリ高校）で、PNGで初めての日本語能力試験が開催されます。能力試験の実施に向けて、協会事務局、ポートモスレービー支部と法人会員の仙台育英学園と在PNG日本大使館が協力して実施にこぎ着けました。能力試験の実施に向けた活動を紹介致します。

仙台育英学園は、ポートモスレービー支部との協力により、2016年8月にソゲリ高校と姉妹校提携を結びました。ソゲリ高校では、1982年から国際協力機構（JICA）の日本語教師が派遣されて日本語授業が行われていましたが、2006年に派遣終了し日本語授業は行われていませんでした。仙台育英学園の加藤理事長は、コンピューター機材の供与と併せて高校から要請のあった日本語授業の再開のために、仙台育英&ソゲリ日本語センターを設立しました。協会メンバーの石井靖也氏がセンター長として派遣され日本語授業を2017年から開始しました。加藤理事長は、日本語事業の他に教師の交流プログラム、教員と学生の留学プログラムを企画しました。その際に、日本語授業の成果を確認する目的と、留学に備えるために、PNGでの日本語能力試験の実施を協会に相談しました。実施に向けて、島田事務局長と仙台育英学園の日本語教諭が日本語能力試験の実施機関である国際交流基金を訪問しPNGでの日本語能力試験について協議を行いました。その結果、2019年10月に外務省を通じて在PNG日本大使館に日本語能力試験の実施のお伺いが届きました。大使館は、私、石井センター長、PNG大学で日本語指導をしているJICAシニアボランティアと協議を行い、実施に向けた協議を始めました。協会事務局は仙台育英学園と実施に向けた調整を取りました。ポートモス

レービーでは、関係者がメールや会議をもちながら PNG 日本語能力試験実施委員会の立ち上げと実施計画書を準備しました。2020年1月に、晴れて国際交流基金は委員会と実施計画を承認しました。私は、教育省幹部に主旨を説明し、その結果、次官より教育省が正式な後援機関となる承認を得ることができました。委員会は、3月9日の願書の受付開始に併せて日本大使館の協力の元で、日本語能力試験のメディアコンファレンスと披露会を行いました。多くのメディアと受験者代表と教育省幹部の参加の中で、中原大使のご挨拶を頂き盛大に披露会が開催されました。この様子は、テレビ、ラジオ、新聞で大きく報道されました。現在、コロナの影響でUPNGの日本語授業は止まっていますが、ソゲリ高校では、石井センター長が教師へ、私は、福岡市主催のアジア太平洋子供会議イン福岡に参加したブリッジクラブ PNGの小学生と教師に日本語を指導しています。第一回能力試験には、合計110名が受験予定です。支部は、委員と協力して日本語能力試験の実施に向けて準備をして行きたいと思っています。この試験を通じて PNG の学生や教員がより日本への親近感を持つてくれることを期待します。



式典の様子



ソゲリ国立高校教職員の日本語学習シーン



PNG 大学村瀬先生の日本語授業風景



伊藤支部長の日本語クラス風景

日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test [JLPT]) 実施の発表

石井 靖也 (仙台育英ソグマリ日本語学習センター長)

3月9日、中原邦之大使は、日本大使館広報文化センターで記者会見を開き、本年7月5日にパプアニューギニアで初となる日本語能力試験を実施すると発表しました。

中原大使は、記者会見でパプアニューギニアでの日本語教育の歴史を紹介し、ソグマリ国立高校やパプアニューギニア大学などで多くの学生が今も日本語を学んでいることから、日本語能力試験の実施は「学生にとっても教育機関にとっても良い刺激になる」と同能力試験実施の意義を強調し、「この試験の実施により、パプアニューギニアの人々が日本について多くのことを知り、それによって両国の友好関係が深まってほしい」と述べました。

記者発表には、実施委員会現地人メンバーで、JLPT 実施会場の提供者でもあるソグマリ国立高校のキベ・ケレンボ校長も参加。同氏は「JLPT 実施は、2017 年以来、同校の悲願であった。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の際の支援・返礼がきっかけとなって結実した仙台育英学園との姉妹校提携が淵源である」と喜びを語りました。

教育省を代表して参加したカリキュラム・測定局部長のウェズリー・ラカイン氏は「日本語教育を推進している機関や有志のイニシアティブ、そして、それをサポートする大使館や JICA の努力を評価し、JLPT 実施を教育省として感謝したい」と祝辞を述べました。

試験会場は国立ソグマリ高校で、願書の受け付けは 3 月 9 日から 4 月 17 日までです。本試験実施委員会は日本大使館及び当国での日本語教育の推進力となっている仙台育英学園 & ソグマリ日本語センター、JICA シニアボランティア、日パ協会ポートモレスビー支部で構成されています。

パプアニューギニアでも新型コロナウイルスによって学校が休校になる等、影響が及んでいますが、本試験実施委員会は事態が好転した場合に備えて、本試験が滞りなく実施できるよう準備を進めています。

(※入稿後に委員会協議が開催され、7 月の実施を中止、12 月の実施を検討することになりました。)



日本語能力試験の実施を発表する中原大使

(左からソグマリ高校ケレンボ校長、教育省カリキュラム課ラカイン第一次官補、日本・パプアニューギニア協会伊藤支部長、中原大使、仙台育英ソグマリ日本語学習センター石井所長)

雑誌「名古屋港」ワールドウォッチへの寄稿について：協会事務局

名古屋港の振興を目的とした「名古屋港利用促進協議会」様より、機関誌「名古屋港」への原稿依頼がありました。パプアニューギニアをまとめてお伝えできる良い機会と考えまして、協会としてお受けすることにいたしました。短納期のため分担制で進めることになり、当協会のメンバーにボランティアで原稿執筆をお願いしました。無事発刊となりましたので、ご報告いたします (執筆者の皆さん有難うございました)。

1. 掲載誌：雑誌「名古屋港」2020 年 3 月号 (第 227 号)

愛知県および名古屋市を設立母体とする名古屋港管理組合 (名古屋港の港湾管理者) 内に事務局を置く名古屋港利用促進協議会の機関誌。創刊は昭和 57 (1982) 年 7 月 20 日。隔月発刊。



2. 読者：官公庁をはじめ荷主、船社、愛知県選出の国会議員、愛知県会、名古屋市議会議員政党グループ、マスコミ各社、名古屋市内の市立図書館、

市内小中学校、県内各大学など。

3. 発行数：2000 部

4. 「ワールドウォッチ」のコーナーにて、パプアニューギニアを紹介した内容と執筆者

- (1) 概要：全般 (地理、日本からの地理的關係、歴史、社会など)
- (2) 政治、経済：全般 (日本との関係、天然資源等、APEC など)
- (3) 文化：伝統的文化 (ハウスタンバラン、シンシンなど)
- (4) 自然：蝶、蘭、ゴクラクチョウなど
- (5) アクティビティ：登山、クルージング、ダイビング等
- (6) 日本との交流：JICA、OISCA、軍楽隊、ソグマリ校等

執筆者

- * 喜多村 裕介 (元 JICA パプアニューギニア所長)：概要、文化、日本との交流
- * 橋 廣治 (元駐パプアニューギニア日本国大使、作家)：政治・経済
- * 古谷 俊爾 (元曙ブレーキ工業㈱取締役、元 JICA シニアボランティア、日本蝶類学会会員)：自然
- * 中村 彰 (㈱グローブ代表取締役社長)：アクティビティ
- * 島田 謙三 (元ニューギニア航空日本支社長、日本ビジネスライン㈱代表取締役)：日本との交流
- * 川口 築 (作家、日本旅行作家協会会員)：文化、自然、まとめ

高野 悠己（在パプアニューギニア日本国大使館 草の根無償外部委嘱員）

3月18日、首都ポートモレスビーにおいて、草の根・人間の安全保障無償資金協力によりホホラデモンストレーションプライマリー学校への校舎の寄贈式典が執り行われました。

パプアニューギニアでは、生徒の増加により、新たな教室の建設が望まれているものの、多くの学校が財政難のため、校舎を増やせずにあります。本案件は、日本の支援において校舎1棟の建設と、建設に伴い必要となる備品（学習机やイス、黒板、ホワイトボード等）を供与するものです。本支援により、同校の生徒約1,700名、教師32名に裨益するとともに、同校を擁する地域の教育環境の改善に貢献することが期待されます。

式典には、日本大使館から中原大使、磯野参事官、谷地館書記官、谷本書記官、高野草の根委嘱員他が参加しました。

中原大使は「適切な教育環境を整えることは、豊かな知識を育むだけではなく、パプアニューギニアの未来発展に貢献するものだと思っています。新しい校舎が日本とパプアニューギニアの絆の証になることを願っています」と述べました。

式典では、パプアニューギニアの民族衣装を身にまとった生徒たちによる盛大な歓迎のダンスや歌、手作りの国旗や日本語によるメッセージボードが掲げられ、参加した生徒やその保護者の人数（約1700人）など式典の規模の大きさなどからも日本への感謝の大きさが感じられました。この支援によって、生徒たちがより快適に授業を受けることができ、日本とパプアニューギニアの友好親善・相互理解がさらに深まることを願っています。



新校舎に掲げられた歓迎メッセージの前で
(中央は中原大使)



民族衣装で出迎える生徒たち
(奥に見える赤い屋根の建物が新校舎)

荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

4月24日現在、前代未聞のCOVID-19の脅威により、全世界がまさにもがき苦しんでいます。

パプアニューギニアは1人の外国人感染者が出た時点で早くも3月24日にState of Emergencyが発令され（現在は6月7日までに延長）、出入国が厳しく制限された為、今のところ大規模なクラスター等の情報は無いようです。発令に伴い、ニューギニア航空も3月23日から14日間のTravel Banが発令され、日本とパプアニューギニアとの直行便のフライトは一旦運航停止となりました。よってパプアニューギニアへの入国が禁止された為、在京大使館においてのビザの申請及び発給がこの日を境にほぼ無くなりました。日本は4月7日に安倍首相により緊急事態宣言が発令され、stay home, stay safe、命を守る行動のもとに、多くの企業や店舗などが自粛や在宅勤務、テレワークなどにシフト致しました。当該大使館も国と東京都の指針により、シフト制などなるべく在宅勤務や時間短縮で状況により不定期で対応しています。

今後も最大の注意を払いながら、世界の感染が早急に撲滅され、またいつもの日常が始められ、経済が復活し、世界を人類が飛び回れることを祈ってやみません。

*追記ですが、4月9日のアジア婦人会のバザー本体は中止になりましたが、ラッフルの購入、抽選だけは決行されました。ご購入して頂いた方は誠にありがとうございます。当選された方はアジア婦人会のほうより、発送を持って代えさせて頂くとのことですので、その旨ご了承願います。

TokTok 会（トクトク会。パプアニューギニアを語ろう会）につきて

協会事務局

Toktok 会は、パプアニューギニアについて語り合うことによって、会員や関係の皆さんの間の交流を図ろうと、2012年4月27日から始められた企画です。第一回目は、在日パプアニューギニア大使館で行われ、当時の全権大使ガブリエル・ドゥサバ氏の命名で「Kivung Bona Toktok on PNG 会」略して「Toktok 会」となりました（因みに Kivung はトウライ語で「集まる」、Bona はモツ語で「そして」、Toktok はピジン語で「話す」、on PNG は英語で「PNG について」です。多言語のパプアニューギニアらしいネーミングです）。

その後 Toktok 会は、パプアニューギニアにゆかりの様々なジャンルの方々によって講演をしていただき、昨年で18回となっています（また Toktok 会以外にも特別講演会が開催されています）。そして講演会が終わりましたら毎回懇親会も開催され、会員同士や関係者の皆さんとの楽しい交流の場となりました。パプアニューギニアという狭い入口から、大きなご縁が広がってきています。

現在は新型コロナウイルスの影響で、残念ながら開催ができませんが、機を見て再開したいと思っております。なお次回は、パプアニューギニアでの日本語能力試験の実施に関する講演会を計画しています。早く開催ができ、皆さんと再会できる日が来ることを切に願っております。

回	年月日	講演者	講師略歴	講演内容
1	2012 4 27	ガブリエル・ドゥサバ氏他	駐日パプアニューギニア大使	在日パプアニューギニア大使館にて、Toktok 会のオープニングセレモニー開催。
2	2012 8 31	原 晃氏	コーエイ総合研究所顧問、元 PNG 政府外国人契約公務員	サマライ島に住みついた、明治の日本人とその子供達 日本 - PNG 交流の記録
3	2013 11 20	中山 郁氏	國學院大学准教授	パプアニューギニアにおける戦地慰霊 - その歴史と現状
4	2014 2 12	西江 雅之氏	アジア・アフリカ図書館館長、元早稲田大学教授	Tok Pisin という言語
5	2014 5 16	篠原 敏治氏	元兎和木材取締役	長年パプアニューギニア人と職場を共にして
6	2014 8 20	中浦 景子氏	元ポートモレスビー・ダイブセンターご勤務	美しい海と発展が共存する首都、ポートモレスビーでの10年間と、PNGの海の魅力
7	2015 4 20	堀江 正夫氏	東部ニューギニア戦友遺族会会長、元参議院議員、陸上自衛隊西部方面総監	100歳記念ご講演 - 我が100年の生涯とパプアニューギニア
8	2015 10 20	唐沢 敬氏	立命館大学名誉教授	パプアニューギニアの経済発展と資源開発
9	2016 2 25	古谷 俊爾氏	元曙ブレーキ工業取締役	パプアニューギニアの蝶を観光資源に
10	2016 7 16	辻丸 純一氏	写真家	パプアニューギニア踊り紀行
11	2016 12 16	日本・パプアニューギニア協会 村田 吉隆氏、中村 弘氏、 ゴロカ班、ラバウル班、 ウエワク班各代表	訪問団団長、副団長その他	日本・パプアニューギニア協会親善訪問団 報告会
12	2017 3 21	穴井 清孝氏	千代田化工建設株式会社 プロジェクトマネージャー	パプアニューギニア LNG プラントについて
13	2018 11 28	嶋野 進氏	元陸上自衛官、厚労省職員、 在 PNG 大使館員	PNG 現地事情 ～遺骨収集及び軍楽隊支援の現状と課題について～
14	2019 3 7	加原 奈穂子氏	早稲田大学 講師	パプアニューギニアの文化と祭り ～ハダシの学者 西江雅之先生の足跡を中心に～
15	2019 5 22	山口 由美氏	旅行作家、ノンフィクション作家	パプアニューギニア取材の現場から
16	2019 9 3	片桐 一夫氏、樋口 栄治氏、 瀧澤 学氏	特定非営利活動法人 山本元帥景仰会	山本五十六記念館 開館20周年記念 「パプア・ニューギニアに感謝する報告会」
17	2019 9 25	大野 政義氏	PNG 国家計画モニタリング省および 財務省のアドバイザー	パプアニューギニアの開発の将来 ～開発政策・財務の動向とマラベ新政権を迎えて～
18	2019 10 30	堀江 正夫氏	東部ニューギニア戦友遺族会会長、 元参議院議員、 陸上自衛隊西部方面総監	大東亜戦争とニューギニア・戦争はどうして始まったか・なぜニューギニアが戦場になったか・どんな戦場であったか・最後まで立派に戦えた訳は

事務局からのお知らせ

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言発令につきて、皆さま大変なご苦労ご心労の事と存じます。

本年度の協会活動も大きく制約を受けることと思いますが、状況を判断しつつできる限りの活動を継続して参りたいと存じます。

引き続き皆様のご協力をお願い申し上げます。

具体的には6月26日（金）に現在のところ「理事会」、「定期総会」、「臨時理事会」そして「懇親会」を霞山会館で開催を予定しておりますが、状況により本年度は書面評決への変更も検討をいたしております。決定次第ご案内申し上げます。

トクトク会などの定期事業も状況を確認しながら、開催を検討して参ります。

現在も継続してご案内しております「メルマガ」「ごくらくちょう」は状況が許す限り継続して PNG と日本との関係を皆様に御案内させていただく予定です。

令和2年度の年会費のお願いを過日発送させていただきました。本年も皆様のご協力、ご支援を引き続きお願いいたします。

平穏な日々が戻り、元気に皆さまとお会いできますこと楽しみにしております。くれぐれも皆様ご自愛くださいませ。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：26 社 ◆ 個人会員：129 名（2020年3月31日現在）

お問い合わせ先

日本・パプアニューギニア協会
事務局

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方ぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員 6,000 円 家族会員 3,000 円 法人会員 60,000 円 学生、PNG 人 1,000 円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ